

霊的な礼拝（第二部）

ホープ・チャペル所沢
ローマ人への手紙12:1-21

「そういうわけですから、兄弟たち。私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします。あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。」（ローマ12:1、新改訳）

序文

ローマ11:25-36で使徒パウロは、神秘的で驚くほど素晴らしい神様の知恵と憐れみについて教えています。この憐れみゆえ、肉体的にはアブラハムとイサクの子孫ではない人々も、アブラハムとその子孫に対して神様が与えられた祝福の約束を受けることができます。この神様の憐れみというのが、私たちもよく知っている「12章1節」において使徒パウロが話しているものです。そして、パウロ自身の言葉と生き方に見られるキリストへの献身も、この憐れみから来ているのです。

1. 心と思い、魂と力を尽くして神様を愛すること （1-5節）

ア) 本来の霊的な礼拝とは、私たちの体を捧げることと深く関係しています。

イ) しかし単に神様に体を捧げるのではなく、奉仕の働きを通して隣人の為に捧げるのです。

2. 神様の助けをもって神様と隣人に仕える生き方 （6-8節）

ア) 私たちは同じ機能や能力を持っているのではなく、同じ愛の恩義を受けているのです。

イ) ここに挙げられているのは、預言、奉仕、教え、勧め、分け与え、指導、慈善です。

3. 敬虔な動機をもって （9-21節）

ア) 霊的な礼拝とは誠実な動機から始まり、愛の行動と言葉を生みだします。

イ) 私たちはすべてにおいてキリストを見習い、キリストの恵みと真理を伝え、現すべきです。

結論

新約聖書に基づくイエス・キリストの弟子としての捧げものとは、神様が与えてくださる賜物と恵みをもって、私たちの心の内で始まるものです。そしてそれは清く、喜ばしく、希望に満ちたライフスタイルを生み出すはずで

私たちの祈りと学び、話し合いと実践のため

- 1) 1-5節に書かれている事柄を、日々の生活に当てはめて考えてみましょう。それは、どのようなライフスタイルになるでしょうか？
- 2) 6-8節に書かれている役割と賜物の中で、神様が自分自身に与えて下さったものを最もよく表しているものはどれですか？
- 3) 9-21節を読みましょう。あなたが自分で良く出来ていると思う事柄と、難しいと感じている事柄は何ですか？告白をもって互いに祈り合ひましょう。

092808hct.j